

第Ⅲ章 まとめ

本調査の主な結果を以下にまとめる。

＜地震危険に対する意識等＞

- ✓ 現在の居住地域で大地震が起こる可能性について、「起こると思う」と「もしかしたら起こると思う」を合わせた比率は、地震保険加入者は83.4%、地震保険非加入者は75.3%で、約8ポイントの差がある（p. 12）。
- ✓ 大地震に対する備えとして、地震保険加入者は、「ハザードマップを確認した」（39.5%）、「防災グッズ（非常用食料、飲料水、非常灯等）を購入または拡充した」（38.3%）、「避難場所を確認した」（30.5%）、「非常持ち出し品を準備した」（28.6%）など、地震に対する備えを行っている比率が地震保険非加入者に比べて高い。一方で、地震保険非加入者は「何も行っておらず、今後の予定もない」が30.2%で、地震保険加入者の22.1%よりも約8ポイント高い。（p. 21, 22）。
- ✓ 今までに地震で何らかの被害を受けた経験があるかについては、地震保険加入者・非加入者ともに「住居建物または家財に被害を受けたことはない」の比率が最も多く、8割以上を占めるが、地震保険非加入者の方が約5ポイントその比率が高い（p. 23）。

＜地震保険加入者への質問＞

- ✓ 地震保険に加入した理由としては、住居建物と家財の両者とも、「火災保険とセットで契約したから」が最も高く、次いで、「地震による被害が心配だから」の順となっている（p. 27, 28）。
- ✓ 地震保険加入者に、地震保険の継続意思を質問したところ、「継続したい」と「まあ継続したい」を合わせた比率は88.1%を占める。一方、「継続したくない」と「あまり継続したくない」を合わせた比率は1.3%で、その理由をみると、「保険料の負担が大きいから」（46.9%）が最も高く、「再建費用のすべてを賄うことができないから」（28.4%）、「保険料が掛け捨てだから」（24.7%）の順となっている（p. 29）。

＜地震保険非加入者への質問＞

- ✓ 地震保険の認知度をみると、「名称を見聞きしたことがある程度」が59.6%で最も多く、次いで、「補償内容をだいたい知っている」が30.9%、「補償内容をよく知っている」が4.3%、「今までに見聞きしたことがない」が5.3%である（p. 32）。
- ✓ 地震保険を知ったきっかけは、「テレビまたはラジオのCM・番組」の比率が最も高く、「地震災害の報道」、「保険のパンフレット等」が次いでいる（p. 33）。
- ✓ 地震保険への加入検討の有無は、「検討したことはない」の比率が52.1%と最も高く、「加入したことはないが、過去に検討したことがある（現在は検討していない）」

(25.7%) が次いでいる (p. 34)。

- ✓ 住居建物の地震保険に加入していない理由は、家財の地震保険のみの加入者では、「住居建物と家財の両方に加入すると保険料が高くなるから」が20.6%と最も高い。地震保険非加入者においては、「具体的な保険料まではわからないが、保険料が高いイメージがあったから」が20.5%と最も高い (p. 36, 37)。
- ✓ 家財の地震保険に加入していない理由は、住居建物の地震保険のみの加入者では、「住居建物と家財の両方に加入すると保険料が高くなるから」が25.9%と最も高い。地震保険非加入者においては、「具体的な保険料まではわからないが、保険料が高いイメージがあったから」が22.4%と最も高い。また、地震保険加入者（『住居』に対する地震保険のみ加入者）・非加入者ともに、「家財は消耗品と考えているから」が高い結果となった (p. 39, 40)。

＜地震保険制度・地震保険料に対する意識＞

- ✓ 地震保険の制度内容に対する認知状況をみると、全体的に、地震保険加入者の方が非加入者よりも制度内容を認知している割合が高い (p. 42～45)。制度内容のうち最も認知度が高かったのは「火災保険では地震による火災は補償されないこと」で、地震保険加入者・非加入者ともに認知率が7割を超えている (p. 42)。一方、最も認知度が低かったのは「保険料率に保険会社の利潤は含まれていないこと」であり、地震保険加入者では約4割、地震保険非加入者では3割未満の認知率となっている (p. 44)。
- ✓ 地震保険料の印象については、地震保険加入者・非加入者ともに半数以上が、高いと感じている (p. 46)。地震保険料が高いと感じている人にその理由を質問したところ、地震保険加入者では、「最高で住居建物の再築に必要な額の50%までしか補償されない割に高い」が29.3%と最も高く、次いで「自分の居住地域が他の地域と比較して高い」が27.2%となっている。地震保険非加入者では、「火災保険とセットで加入しなければならないため高い」が32.2%と最も高く、「契約金額（保険金額）の割には高い」が30.2%で次いでいる (p. 48)。
- ✓ 地震保険料の構造区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が4割程度と最も高く、次いで「リスクに応じてもっと細分化すべき」、「区分数を減らし、もっと単純化すべき」が3割程度である (p. 50)。地震保険料の構造別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「妥当である」が45.1%、「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が34.9%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の8.6%を大きく上回る。地震保険非加入者も、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1割程度を占める (p. 52)。
- ✓ 地震保険料の地域区分に対する意識をみると、地震保険加入者・非加入者ともに、「今のままでよい」が3割半ばと最も高く、次いで「区分数を減らし、もっと単純化

すべき」、「リスクに応じてもっと細分化すべき」がそれぞれ3割程度である（p. 54）。保険料の都道府県別の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が43.6%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の9.6%を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向である。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1割程度を占める。（p. 56）。

- ✓ 地震保険料の割引率の差に対する意識をみると、地震保険加入者では「差が大きい」と「やや差が大きい」の合計が36.2%、「妥当である」が41.0%で、「やや差が小さい」と「差が小さい」の合計の9.1%を大きく上回る。地震保険非加入者においても、同様の傾向となっている。ただし、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」が1～2割程度を占める（p. 57）。

＜住居建物の属性＞

- ✓ 住居建物の建て方は、地震保険加入者・非加入者ともに「一戸建＜持ち家＞」が5割以上と最も比率が高い。しかし、2番目に比率が高い建て方については地震保険加入者と非加入者とで異なり、地震保険加入者では「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」の21.3%だが、非加入者では「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」の31.5%となっている。地震保険加入者は『持ち家』の比率が89.0%であるのに対し、非加入者は65.3%と、約24ポイントの差がある（p. 62）。
- ✓ 建物の主な構造は、地震保険加入者・非加入者ともに「木造」の比率が5割台である（p. 69）。
- ✓ 建物の建築時期は、地震保険加入者では「2001～2010年」と「2011年以降」の合計が60.1%であるのに対し、非加入者では45.2%と約15ポイントの差がある（p. 74）。
- ✓ 『共同住宅・長屋建』の地上階数は、地震保険加入者では「6～10階」が32.9%と最も高い。一方、地震保険非加入者では「3～5階」が35.0%と最も高い。また、「1～2階」の比率は、地震保険加入者が10.9%、非加入者が22.3%で、約11ポイントの差がある（p. 78）。
- ✓ 住居建物を建築・選定する際に耐震性をどの程度考慮したかについては、地震保険加入者では「耐震性が高いことをとても重視した」と「耐震性が高いことをある程度考えた」の合計が71.6%であるのに対し、非加入者では52.2%となっており、約19ポイントの差がある（p. 101）。

参 考 文 献

- 1) 総務省統計局：令和2年国勢調査, <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>
- 2) 総務省統計局：令和5年住宅・土地統計調査, <https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/index.html>
- 3) 損害保険料率算出機構：損害保険料率算出機構統計集（2022年度版）,
<https://www.giroj.or.jp/publication/statistics/>

